

「神戸市都市景観形成基本計画（更新案）」に対する意見の内容
及び意見に対する市の考え方

○実施期間：令和3年6月1日（火）から6月30日（水）まで

○意見数：6人・13件

※ご意見は、趣旨を損なわない範囲で要約しています。

No.	意見の内容	神戸市の考え方
1	<p>景観形成されるにあたり、景観をより深く広く味わってもらえるよう、神戸市の郊外で民泊（簡易宿泊施設）を増やしたいので、民泊条例の規制を緩和して欲しい。</p> <p>神戸市郊外それぞれのあるがままの魅力UPという案は賛成だが、その魅力をもっと日本中・世界中に発信したいと思っている。</p> <p>神戸の観光本は、主に中央区のメリケンパーク・ハーバーランド・異人館・居留地・南京町+有馬温泉ぐらいで、なかなか神戸に滞在してくれず、恐らく世間の認知では1日あれば楽しめる神戸という程度で、1日遊んだら、姫路城に行ったり、大阪や京都に行ったりという現状である。</p> <p>そこで、『街ぐるみ宿』『街ぐるみオモテナシ』という考えを提唱したい。</p> <p>郊外エリアの価値を上げるのに、簡易宿泊所（民泊）は必須である。</p> <p>市街化調整区域や教育施設周辺などへの乱立や環境破壊も困るので、ある程度の規制が必要なのは理解しているが、西区の田園風景・里山を味わえる民泊、児童養護施設関係者の方々にも楽しんでもらえる民泊、地域と共存・共生できる民泊を考えているが、今の規制では実現のハードルが非常に高い。</p> <p>私の考えでは、須磨区・垂水区で海を、長田区・兵庫区で下町を、西区で田園風景・里山を、北区で山と温泉と裏六甲を、中央区で定番スポットを堪能する。それぐらい魅力がある景観で、しかもコンパクトである。</p> <p>『コンパクトに1週間楽しめる神戸市！』というのを日本中・世界中に発信したい。</p> <p>その為に、民泊のハードルを下げたい。</p> <p>宿泊しないと、西区、田園風景+自然のホテルなんて、味わえない。</p>	<p>ご指摘のとおり、景観は、重要な観光資源のひとつであり、今回の都市景観形成基本計画の更新案でも、観光資源として景観形成を位置づけ、神戸観光の魅力を日本全国はもとより海外にも発信していくことが大切である、としています。</p> <p>一方、いわゆる民泊条例については、騒音などによる生活環境の悪化の防止などを目的として、住居専用地域や学校等の周辺の地域において、事業の実施を制限しています。</p> <p>また、市街化調整区域においては、民泊条例ではなく、都市計画法の制限を受けることがあります。</p> <p>ご意見については、関係部局にも伝え、観光部局とも連携して神戸の景観の魅力を発信していきたいと考えています。</p>
2	<p>BE KOBEブランド確立の為、モニュメントを徐々に増やして欲しい。</p> <p>加えて、神戸土産にする為、『BE KOBE ガチャガチャ』の制作の検討をお願いしたい。</p>	<p>都市景観形成基本計画は、神戸市都市景観条例に基づき、都市景観の形成に関する基本的な方向を明らかにするために策定するものであり、個別の再整備等の計画を行うものではありませんが、いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
3	<p>山本通4丁目周辺は、これまで注目されなかったエリアだが、これから必ず人気が出るショップが出店し、古いマンションもヴィンテージマンションとして、お洒落な若い世代の購入者が増えている。</p> <p>北野坂の方は家賃も高く出店しづらく、今年に入り、空テナントが急増しているが、山本通4丁目は路地に古い民家も多く、センスの良い事業者が出店できるポテンシャルがある。</p> <p>山本通4丁目周辺への注目によって、海外移住と文化の交流センターの利用価値も上がる。</p> <p>異人館通から山本通4丁目バス停までのエリアも、異人館通のように美しく、神戸の憧れの通りに成り得る。</p> <p>今は歩道も狭く、夜は街灯が少なくかなり暗いが、綺麗になれば、三宮や元町で働いて、電動自転車でこの辺りに帰宅する働く世代にも需要が見込める。</p> <p>再整備をご検討いただきたい。</p>	<p>都市景観形成基本計画は、神戸市都市景観条例に基づき、都市景観の形成に関する基本的な方向を明らかにするために策定するものであり、個別の再整備等の計画を行うものではありませんが、いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
4	<p>見通し型眺望景観に対する重大な懸念がある。ビーナステラス眺望点、ポーアイしおさい公園眺望点からの誘導基準の見直し、撤廃を要望する。</p> <p>都心は高度業務地域として高層・高密度な業務集積を目的とした制度設計がなされている地域である。その地域に重要度として意味の無い眺望点（しおさい公園・ビーナステラス）からの誘導基準で建物高さや形態に重大な規制を掛けるのは不整合・不合理であり、全く市民の利益にならない。</p> <p>そもそも民間資産に幅広く一律の規制を掛ける事は重大事項であり、それによって市民が不利益を被る事はあってはならない。この規制により市民は何の利益を得られるのか。市民や観光客も滅多に訪れないマイナーな眺望点から稜線や海面に拘る事に大きな価値があるとは思えない。ましてや10年以上も無意味な規制を続けている。</p> <p>疑問視するのは余りにもマイナーな眺望点であり、規制して得る利益がほとんどない事である。おそらく景観政策に関わった学識者や市役所担当者の皆さんも私的に両地点を訪れることは過去においてもこれから先もほとんどないのが実態で、景観条例を体系的に策定する事自体が目的化している。</p> <p>六甲の山並みは市街地に沿って東西に長く連続しており標高も都心エリアに於いて400mから600m以上あり、市内の何処からでも山を眺めることが出来る。大都市ではモントリオール市が市内中心部にあるモン・ロワイアル山（233m）を超える高さの建築物を規制しているがこれは建物の絶対高さ規制である。大して意味の無い眺望点からの規制ではない。眺望点からの規制はそれに代わる価値を持つ眺望点が出現した時点で無意味となる。</p>	<p>都市景観形成基本計画は、神戸市都市景観条例に基づき、都市景観の形成に関する基本的な方向を明らかにするために策定するものであり、具体的な眺望景観形成のための基準を定めるものではありません。</p> <p>なお、ビーナステラスやポーアイしおさい公園からの眺望景観形成のための誘導基準に対する神戸市の考え方については、令和元年6月27日から7月26日までに行った意見募集の際にもお示ししましたが、あらためてお示しします。</p> <p>眺望点については、同様に都心部を見晴らせる場所は他にもいくつもあります。ビーナステラスとポーアイしおさい公園は、その立地や標高等の関係から、より広範な範囲での基準設定を行うことができ、特に、高さ規制については、他の視点場からの景観形成にも有効であることから施策の対象としています。</p> <p>また、神戸のように高低差の大きい地形の場合は、絶対高さ制限よりも標高による規制が有効であると考えています。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
4	<p>また東西軸に沿って、地上60mを超える部分の建物巾を40m以下に規制する誘導基準は都心の大規模ビル開発や更新に大きな障害となる。一律の規制は余りにも乱暴で、本来壁面線の後退や高さの最高限度などの形態制限は特定の物件ごとに吟味され指定するものである。呆れるほど素人くさい規制である40mの数字は何を根拠にして、誰がいつ決めたのか。</p> <p>「神戸らしい」という抽象的な表現で一方向的に解釈し、景観規制を押し付けているが、市民それぞれが感じる「神戸らしさ」は様々である。進取の気概で発展してきた神戸が常に新しく変貌する事こそ神戸らしさと思う人もいるだろう。規制で何かを守る事は大事だが、その規制が進取の気概まで奪っている。</p> <p>景観保全や懐古趣味の一眼的視点から様々な規制を都心に強いる事は神戸の将来にとって良い事なのか。都市経営に及ぼす負の影響に考えも及ばない一部の識者や行政者がここまで神戸の景観を規制し決めつける資格があるのか。神戸の景観はいったい誰の物なのか。</p> <p>都市間競争の熾烈な現在、都市経営の視点から見ると規制を乱発することは経済都市にとっては自殺行為である。「優れた眺望景観を次世代へ引き継いでゆく・・・」というこの審議会の目的が「民間活力を減退させ衰退した神戸を次世代へ引き継いで・・・」と成り下がる。</p> <p>景観保全志向に特化し硬直したお仲間メンバーでは景観誘導の体系を完成させることが目的化しやすく、時に暴走してしまう。幅広いメンバー構成とメンバーの流動化が必須であり、固定化や形骸化を避ける事が急務である。</p>	<p><u>眺望景観誘導基準は、指定容積率等に見合った計画が十分可能な基準であり、経済的損失を生んだり、民間の投資意欲を削いだりするような過度な規制ではないと考えています。</u></p> <p>また、ご指摘のように、土地の高度利用を前提として、壁面の位置の制限などを特定の物件ごとに定める高度利用地区、特定街区、都市再生特別地区などにおいては、高さや幅に関する基準は適用除外としています。</p> <p>都市景観審議会は、様々な分野の専門家と市会議員、市民からなる委員の方々から構成されています。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
5	<p>さんちかや三宮中央通り地下通路のリニューアルの際に、バーチャル天窓を採用してみてはどうか。最近になって開発された照明なので、まだ採用した例は非常に少なく、他の都市の地下モールや地下道と差別化できるいい機会になると思う。天井一面がバーチャル天窓になるような大型のものを採用すれば絶対に話題になる。前向きにご検討いただきたい。</p> <p>震災から25年が経過し、いよいよ神戸の財政も一般的な自治体並みに回復してきた。緊縮財政の結果、神戸の再開発は他の都市に比べて周回遅れとさえ言われているので、今後の再開発による巻き返しに期待している。</p>	<p>都市景観形成基本計画は、神戸市都市景観条例に基づき、都市景観の形成に関する基本的な方向を明らかにするために策定するものであり、個別の再開発等の計画を行うものではありませんが、いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
6	<p>時代変遷に鑑みて景観計画を新たに更新することだが、ありきたりの内容では意味がないと思う。とくに我々を取り巻く社会、生活様式、科学技術、環境は日々格段と進化しているのだから、これに伴い斬新な更新内容になることを希望する。神戸市の景観政策が始まったのは昭和57年だという。昭和56年にポートアイランド博覧会、通称「ポートピア81」の翌年だから実に40年の歴史と言える。街は生き物のように進化するのに40年間に経過してほぼ変更がほとんどないことに驚嘆する。コンプライアンス重視の世の中であるが、憲法ではないのだから変更するべきところは、次の制定化50年に向けて必要なところはどんどん変えることが肝要であると思う。ただし、この基本計画の総論部分を根底から揺るがすことを提案するよりは、下記において各論部分を取り上げてさらにブラッシュアップできる提案をしていきたいと思う。</p> <p>第2章 景観類型別の景観形成計画について</p> <p>●眺望型景観の類型について</p> <p>しおさい公園から、大丸前交差点から、須磨海岸から、ヴィーナステラスから、今度はJR神戸駅前再整備で神戸駅北から大倉山に向けての眺望景観とか…。よくもまあ、いつの間にか様々な規制眺望基準を設けて神戸の景観をがんじがらめにしたものである。基本的には景観を理由に自由度の低い、どこかの古都や富裕層が住む街と同じにしようというのが間違いである。関西の中で一番新参者の神戸市が京都、奈良、芦屋あるいはヨーロッパの都市の真似をすることがこの街の個性を妨げている。上記の都市は、ほぼ街の発展を犠牲にした住宅都市である。そのことが神戸市の発展を妨げている。今後、新たな眺望基準は定める必要はないし、それどころかせつかく国から緊急都市再生整備地区、あるいは特定都市再生緊急地区に指定されたのに、条例、要綱が都心部では多すぎるので市外企業には進出、不動産投資を諦められている傾向がみられ更新が滞っている結果を招いている。これら現状に合わなくなった条例等の取捨選択を検討すべきである。公共空間の創設、不動産の高度利用、緑化など適用除外項目を市外企業に再度訴えることで投資を呼び込めるようにすべきである。わたし個人はロンドンにはセントポール大聖堂を見通せるビューコリドーという景観政策があるが、見通し型と言える眺望基準点からのいくつかの直線状景観規制である。神戸はまだこのような国宝的建築物は存在しないのだが、ポートタワーをやりたいならヴィーナステラスのような見渡し形でなくヴィーナステラスを直線状のビューコリドー視点場にしたらいいだけと思う。都心を含め全市的な見晴し型眺望景観よりはビューコリドーのような見通し型景観を勧めてもいいと思う。平野ではなく元来、土地の狭小な神戸には上記の理由も含め見晴し型景観は不向きと思う。</p>	<p>更新案の序章でも述べているとおり、昭和53年の都市景観条例の制定、昭和57年の神戸市都市景観形成基本計画策定以降、幾度かの条例改正や夜間景観に関する基本計画及び景観づくりの指針の策定など、直面する課題に応じた対応はこれまでも行ってきています。</p> <p>今回の更新は、夜間景観形成基本計画や景観づくりの指針を整理統合するとともに、これまで積み重ねてきた景観行政の取り組みを位置づけ、当初基本計画を更新するものです。</p> <p>眺望景観誘導基準は、都市景観形成基本計画ではなく、景観計画に定めるものですが、指定容積率等に見合った計画が十分可能な基準であり、経済的損失を生んだり、民間の投資意欲を削いだりするような過度な規制ではないと考えています。</p> <p>また、土地の高度利用を前提として、壁面の位置の制限などを特定の物件ごとに定める高度利用地区、特定街区、都市再生特別地区などにおいては、高さや幅に関する基準は適用除外としています。</p> <p>なお、ご指摘のJR神戸駅前再整備に伴い、新たな眺望景観誘導基準を定める予定はありません。</p> <p>見通し型の眺望景観については、現行では、元町1丁目交差点から錨山を見通す基準が該当しますが、見晴らし型、シンボル型とともに重要な要素と考えており、今後ともその保全を図っていきたいと考えています。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
6 の つ づ き	<p>●工業系以外の「港湾地」と自然地域の「臨海海浜」を統合して、「ウォーターフロント」とする</p> <p>ウォーターフロントの景観づくりに対しては現在、開発中の新港地区に関しては一定のレトロ物件は保存に値しても、昭和初期物流上屋に関しては年代が古いからという観点では保存に適していない。何故かというところコロナ禍以降、商業施設の天井高、床面積、空調が見直される傾向になると思われるからである。ただ上屋は天井高があることから、一部外壁保存などしてコストコなどの大型倉庫併用腰巻ビルでの活用なら納得できる。</p> <p>●「歴史的地区」、「駅前空間」を追加</p> <p>駅前空間は鉄道会社など民間企業のものでもあるから、一方的な条例の締め付けでなく企業側の提案をもとに実利に見合った計画の立案を求む。大手鉄道企業の協力なくしては【高質な駅前景観】はなしえないと覚悟すべきである。</p> <p>歴史的地区に関してはその街区、町村の景観シンボルとして一つは街の共有財産としてレトロ物件を公共施設等に利用などの名目で保存されることが望ましいが、近代建築に代表されるこのような物件は指定されてもオーナーが施設老朽化と資金繰りで売却することが多いので、木造ぐらいなら早めに移築などの検討をしてみてもどうか。</p>	<p>第3章でも述べているとおり、歴史的建築物などの景観資源は、都市景観の質を高め、特色づけるもので、地域の個性ある景観形成を図っていくうえで保全すべきもの、あるいは活用することで景観形成における効果が期待できるものであり、年代が古いという理由だけで保存するのではなく、その活用方法も含め、指定制度等による取り組みを推進していきたいと考えています。</p> <p>ご指摘のとおり、駅前空間景観の形成にあたっては、鉄道事業者などの民間企業とも連携しながら推進していきたいと考えています。</p>
7 ～ 12	<p>第3章 都市景観形成の具体化方策について</p> <p>ファッションに敏感でない中高年ウケの地味路線景観政策が若年にウケないのは時代が変わったからである。我々はそのことをまずは認識していかなければならない。人間と同じく街にも個性がある。人を縛り付けたら途端に魅力を失う。景観はビルと自然との絡みしか語りえないのか？という疑問から下記の視点を提案する。</p>	

No.	意見の内容	神戸市の考え方
7	<p>●建築観点以外からの景観政策 (色彩による景観づくり)</p> <p>景観政策指導により現行ビル群は白を基調とした外観造りを基調としていたはずである。しかし夏はいいが冬は白っぽいビル群が寒々しさを与える。市からの指導があるのか近年はアースカラーのビルが増えている。全体が白というのではなく様々な色の組み合わせを提案してほしい。復元された阪急三宮ビルは以前の外観はミントグリーン色が印象深かった。北野の異人館群は様々な色の組み合わせがあり、明治の創建時は黒茶系の日本の街並みに対しそのカラフルな配色に違和感を覚え驚嘆しただろう。神戸異人館の白地に濃緑色、甲子園球場に見られる赤煉瓦にツタの緑など植物との取り合わせなどオーソドックスな色の組み合わせなども参考になると思う。</p> <p>(音楽による景観づくり)</p> <p>「他分野のまちづくりとの連携」「わがまち景観」</p> <p>音楽は人類最高の芸術である。音楽はあらゆる感動を左右する。ロック、ポップス、演歌、ブルースその他民族音楽どれもみな素晴らしい音楽である。問題は音楽の多様性を忘れ一括りのクラシック系音楽だけで音楽を語ろうとするから神戸から新しい音楽が生まれないのだろう。とはいえ市中どこでも街頭スピーカーで音楽を流す訳にはいかないから、たとえば動画サイトで切り取られた神戸の一景観に音楽がどのようにマッチするか。ヘッドフォンで音楽を流しながら見る景観を人はどう楽しんでいるかを議論するのも一考である。一方、主要電鉄駅構内や施設広場で流れる音楽も景観の一要因として業者と議論するのも一考だろう。最近のストリートピアノはこの流れであると思うが、元来は琴や三味線などが置かれていてもいいのである。実はこのストリートピアノで演歌やロックを演奏する人が現れることを密かに期待している。</p> <p>(ファッションから見た景観づくり)</p> <p>「パブリックスペースのデザイン」「わがまち景観」</p> <p>近年、兵庫区長田区では企業実習生としての東南アジア人が多くみられる。民族衣装を着て歩ける景観こそが国際都市神戸にふさわしいのではないか？</p> <p>世界各国の民族衣装など、エスニックな衣装を違和感なく堂々と着て歩けることこそが神戸にふさわしい。エスニックテーマパークに近い街並み空間づくりが必要である。阪急神戸三宮駅ビルのEKIZOはその名の通り、エキゾチックな空間づくりが出来ているので飲食利用者がこのようなエスニックファッションでも違和感ないし、参考になると思う。</p>	<p>色彩に関する具体的な基準は、基本計画ではなく、景観計画や地域のルール等で、地域・地区ごとの特性に応じて定めています。</p> <p>「白を基調とする」という基準はありませんが、明度は高め、彩度は低めとしている基準があります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。</p> <p>ご指摘のとおり、景観を構成する要素は、ビルや自然だけでなく、音楽などの人の行為や仕組みなども含まれます。</p> <p>第3章では、季節ごとの飾りつけ、清掃美化活動、ストリートパフォーマンスなどを例に挙げ、大切な景観資源である、としています。</p> <p>ファッションから見た景観づくりも含め、いただいたご意見は、参考にさせていただきます。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
8	<p>●夜景「夜間景観の形成」</p> <p>街灯に羽虫が群れ集うのは昆虫が光に惹かれる本能によるものである。同様に人間にしても夜のネオンに惹かれて繁華街に繰り出すのは動物の摂理である。光のイベントのみならず、建築物や街路樹のライトアップにも賛成だし、夜景の照明に電球色を基本とすることは納得であるが、経済活動に必要な（飲食店、商業施設など）赤、白、青、緑、など配色に多彩さも必要である。夕刻以降、早々と消灯するオフィスビルと違って、夜遅くまで点灯するタワーマンションはこと夜景に関しては多大な貢献をしていると思う。ナイトライフの集客の場として、新築の神戸三宮阪急ビルとEKIZOは見事にランドマークとしての夜景づくりに貢献していると思う。対して神戸市役所1号館はせっかくライトアップを再開したのに中止しているのは残念だ。諏訪山などに無理やり過度なイルミネーションをいくつも配置することは森林自然破壊にも通じ反対である。日本で最初にライトアップを行ったのは戦国時代の織田信長である。新築の安土城を松明と提灯とで、城全体と城に至る参道、寺、また周辺の琵琶湖上に提灯を灯した何艘もの舟を浮かべ幻想的であったという。相当な人出があって、しかも民衆に木戸銭を取ってまでこのイベントを成し遂げてしまう信長。この数百年前の人物のプロモーション力に見習ってほしい。</p>	<p>見直しを予定している景観計画では、新たに夜間景観に関する基準を策定することとしています。</p> <p>ご指摘のとおり、電球色を基調としながらも、地域特性に応じた基準となっているほか、良質な夜間景観を演出するようなものについては基準によらないことができます。</p> <p>神戸三宮阪急ビルについては、景観デザイン協議の際に、変化に富んだ夜間景観が演出できるよう配慮することなどについてご検討いただきました。今後も事業者等のご協力をいただきながら夜間景観に関する取り組みを進めていきたいと考えています。</p>
9	<p>●広告「屋外広告物の景観形成」</p> <p>現在、屋上看板は神戸市の規制の影響かはたまた広告の激減か鉄枠のみや白地看板が多く、まるでスケルトン化して見苦しい。夜景にも関係してくるが街中もデジタルサイネージや液晶画面などを使ったものも少なく、画面も小規模のためせっかくの4K8K、などズーム対応など精細な画像、3Dによるアクティブ立体映像の最新の技術革新などが視野に入っていない。郊外、市街地ではあまり派手ではない広告看板推奨で結構だが、都心部では派手目なものを許容し、推奨していただきたい。商業広告は目立つことが広告する理由である。広告はいったい何のためにあるのかが議論されていないことが原因であると思う。</p> <p>また常々、広告文字で英字、漢字にくらべ、ひらがなカタカナ日本語は広告にあまり向いていないと思っている。これは現代の丸文字系文字フォントの問題が大きい。近年、インバウンド増加により京都では英字看板が増えた。観光客にとって京町家に日本語を排した英字のみ看板の mismatch が逆にエキゾチズムを加えるという好結果に繋がった。ただこれも見せ方でかなり効果が違う。アニメ映像関連のデザイン企業はこれが上手いのでこちらの業界デザイナーの意見を取り入れることが肝要だと思う。</p>	<p>見直しを予定している景観計画では、新たに夜間景観に関する基準を策定し、映像装置などの新技術にも対応することとしています。</p> <p>屋外広告物の景観形成については、必要に応じて専門家の意見も聴きながら、地域団体や屋外広告物行政の担当部局とも連携し、景観形成を推進していきます。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
10	<p>●景観と経済</p> <p>現実問題、様々な景観計画、景観条例が施されることによって企業の（とくに県外企業）神戸市への投資への影響はないのだろうか？現に2011年以降、企業の神戸離れは顕著化している。大手企業の移転、廃業も相次ぐ。これに政令都市日本一の人口減が重なる。</p> <p>未来を見据えての舵取りを誤れば、また財政破綻への道を神戸市は逆戻りで歩かねばならないのである。</p> <p>企業の投資を積極的に呼び込みコラボする。景観上必要と思われる意匠費用を助成する。41年たち現行に合わなくなった景観条例を見直し緩和または廃止する。インセンティブを企業に供与する。そのことにより神戸市経済を活性化させる。そして保守的政策に捉われてばかりでなく<u>未来志向の景観づくりを勧めていくことが肝要</u>である。</p>	<p><u>景観計画等による規制は、経済的損失を生んだり、民間の投資意欲を削いだりするような過度な規制ではないと考え</u>ています。</p> <p>いただいたご意見も参考に、景観施策に取り組んでいきます。</p>
11	<p>●文化芸術から見た景観</p> <p>文化とか芸術ばかり強調しすぎてエンターテインメント産業を神戸市は下に見すぎている。古典芸能ばかりでなく、音楽や映像メディアのポップスカルチャーを推進する気概が必要である。また昨今神戸市のリノベ計画では新築ホールラッシュの様相だが、たとえば神戸まつりのメインパフォーマンスは路上サンバの踊りと音楽だと個人的には思っている。サンバの持つ南米ブラジルの陽気さと妖艶さが神戸には最も似合っている。このサンバが恒常的に見られる屋内外ステージを提供することは国際港都としての面目躍如でもあると思う。芸術の原点はエンターテインメントである。歌舞伎なども河原でやった見世物芸から始まって進化した後、役者演者たちの人々に最高の芸を見せる意識技術が高まって芸術に昇華したのである。まずは観客（市民）を楽しませられるかどうか。普段から感性弱くブランド主義で芸術文化一点張りの人はこのことを分かっていないから笑止千万である。</p>	<p>文化芸術から見た景観に関するご意見については、<u>今後の施策の参考にさせていただきます。</u></p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
12	<p>●眺望景観基準に関して思うこと</p> <p>市の景観計画に何が足りないかという世の中の流行と新技術に付いていけないと言うことが最大の難点であると言える。昭和は良かったというノスタルジ的な行動理念から、流行に乗った新しいことを規制することでモラトリアムな気風を作ってしまったようである。そのことで神戸人はメンタルな部分で大きく停滞し始めた。進取の気風が関西三都の中で取柄だったのにもっともコンサバティブな街となろうとしている。</p> <p>松尾芭蕉は俳諧にとって重要な理念は「不易流行」だと言っている。未来においてもこの重要な本質が守られていれば、常に流行を追い変化して新味を取り入れることで俳諧という芸術は廃れないと判断してこの言葉を俳諧の理念とした。</p> <p>ひとつ断っておくが、この重要な本質とは五七五の音韻形式だけでなく、人の心のことである。芭蕉は、どの時代を生きていても常に人は過去に後ろ向きでなく、変化する未来に向かって生き残っていかなくてはならないと考えた。形に拘り過ぎると俳句は大衆から離れ、一部のマニアのものになると考えたのである。これは歌舞伎も同じこと、様々な新しいパフォーマンスを加えることで芸能として生き残ったのである。</p> <p>人を感動させたいと思うことはプロモーションの原点であるが、感動とはしみじみとすることや泣くことだけではない。笑うこと、喜んで飛び上がること、冒険をやってみたいと思う克己心を奮い立たせること、人間の感性、皆感動である。今の神戸市民に対して欠けている心の情動とは、面白い、楽しい、ワクワクしてやる気を起こすアンビシャスな感情の部分をどう盛り上げるかが、今後の神戸市の景観計画のサブテーマ、骨子になるのではないかな？</p> <p>そして人の心、心理を知ることが真理を知ることである。失われた行動力が蘇ることが出来れば神戸は再生するだろう。あなたたちは神戸市の本来の都市個性を誤解していないだろうか？</p> <p>最後に神戸市都市景観審議会の人員構成の変更を提案する。固定観念に縛られた有識者としての建築学識者や景観に関係ない福祉ばかりを発言する某政党は言わずもがな、景観議論に無知な政党、地元企業互助に配慮する組合出身者、地元新聞社は果たして絶対、必要なのか。以前はこんな構成ではなかったような気がする。</p> <p>入れ替えが無理なら現実的に社会の実戦で活躍する大手デベロッパーや商業デザイナーやプロモーター、映像メディア作家などを増員する形で、多彩な審議委員で構成されることを希望する。70年大阪万博のメインプロデューサーはSF作家の小松左京氏だった。小説上で3年後日本を沈没させる人間が世界を進化させるイベントをプロデュースしたのである。今後は複眼視線で様々な多様化を含めて審議会の人選を考慮いただきたい。</p>	<p>都市景観審議会は、様々な分野の専門家と市議員、市民からなる委員の方々から構成されており、多様な視点からご意見をいただいているところです。</p> <p>その他のご意見を含め、いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見の内容	神戸市の考え方
13	<p><u>六甲山からの景色、景観についての考えをもう少し打ち出してほしい。</u></p> <p>六甲山から港神戸が見える景色は、山上において実はかなり限定的である。六甲山頂上駅、六甲山頂上、展望台等またある程度人の手が届いている範囲からしか景色を見渡すことができない。企業の敷地が占めているというのもあるかもしれないが、近年の企業の保養地の放棄具合は目に余るものがある。</p> <p>勿論、人の手にも予算にも制度にも限界はある。しかし、折角六甲山に登っても間伐されておらず、長年に渡って成長した木々に阻まれ（それが魅力だ）という意見も勿論あるかもしれないが、これも憶測だが大部分の人間にとっては車から流れる景色や歩いて見える景色こそが神戸の景観を認識する上でかなり重要な要素だと考えているので、<u>六甲山上から神戸の街並みが見える景色を間伐等で増やすことも検討していただきたい。</u></p> <p>別に車道に拘る必要はなく、登山道から初めてもよいと思う。そこはすでに始まっている部分もあって、ある界限からは「素敵ですね」と好評をいただいている。</p> <p>例えばInstagramやTwitterで画像検索をしても六甲山からの景色というのはどこか既知の似通った画像になってくる。定型的になってしまっている。</p> <p>やはり六甲山上が散歩しやすい環境になっていない。勿論登山するならば登山の格好は必要ではあるが、夏を過ごしてもらう上で、ワーキングやリフレッシュをってもらう上ではロッククライミングなどをしない限り重装備は必要では無い。</p> <p>港から見る神戸の街並みも大事なかもしれないが、しかし規制が厳しすぎると、折角の企業の投資意欲も減退してゆく。</p> <p>様々な方角や角度から見た神戸をより増やすためにも、固定的場所ゆえの視点からの都市景観に拘りすぎず、多方向からの視点が必要であろうと考える。特に南北ではなく、東西からの視点が神戸は少ない。西から見た東、東から見た西と。気づかれておられると思うが、御検討いただきたい。</p>	<p>市街地に近接した六甲山が持つ役割は多様であり、その中でも、神戸の代表的な景観を構成していることは、広く認識されています。</p> <p>ご指摘のように、車から流れる景色や歩いて見える景色のような「見えかくれ」する景観も重要な要素として、基本計画でも位置づけています。</p> <p>また、港から見る神戸の街並みだけでなく多方向からの視点が必要であるのもご指摘のとおりであり、神戸らしい眺望景観50選.10選では、港からだけでなく、山上や街中のほか、動く視点からの眺望も選定しています。</p> <p><u>六甲山の森林整備については、建設局が平成24年に「六甲山森林整備戦略」を策定し、防災や景観向上等を目的にした間伐やハイキング道の修繕などに取り組んでいます。</u></p> <p><u>今後も関係部局と連携しながら施策を推進していきたいと考えています。</u></p>